

機関リポジトリにおける雑誌論文の登録業務に関する調査（報告）

平成 28 年 6 月

機関リポジトリ推進委員会
課題領域：オープンサイエンス（SCPJ 班）

1. はじめに

学協会著作権ポリシーデータベース (Society Copyright Policies in Japan; SCPJ) は、国立情報学研究所平成 22～24 年度 CSI 委託事業 (領域 3) 「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト」として構築運営を実施したものである。同プロジェクトは、国内研究者の所属する学協会に対して発表論文等の著作権取扱い状況を確認し、それらの情報をデータベースに一元管理することによって、研究成果公開の土台としての機関リポジトリ運営のサポートや、研究機関からの情報発信を促すことを目指してきた。

事業実施期間においては、各種フォーラムでの発表はもとより、学協会への定期的な悉皆調査やデータベースシステムの改良を行うなど、2100 を超える学協会の情報を収集するに至っている。これにより各研究機関による機関リポジトリでの研究成果公開をサポートする役割を担ってきたが、事業完了後はシステム維持と内容更新の必要が判明した学協会情報を更新するに留まっている。他方、研究成果のオープンアクセスは国内外を問わず推進の動きを見せており、そのなかで学協会が自身の成果発信において著作権をどのように取扱っているかを明らかにすることは重視すべきであろう。

本調査はこうした状況を踏まえて、機関リポジトリ担当者による機関リポジトリへの雑誌論文登録業務の実施状況と、そのなかでの著作権ポリシー確認状況を調査することにより、SCPJ の今後のあり方を IR 担当者へのサポートの視点からの検討材料とするものである。

目次

1.	はじめに.....	1
2.	調査の概要.....	4
3.	集計に当たっての注意点.....	4
4.	調査結果.....	4
	質問 1. 貴図書館名をご記入ください。.....	4
	質問 2. 貴館のリポジトリでは個々の研究者から申し出のあったコンテンツ (学術雑誌掲載論文等) の登録を受け付けていますか。最も当てはまるものを 1 つだけ選択してください。.....	4
	質問 3. リポジトリ担当者等から、所属研究者に対しコンテンツ登録の呼びかけを行っていますか。.....	5
	質問 4. 質問 3 で「行っている」と回答した館にお尋ねします。具体的に登録して欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを行っていますか。(例: XX 誌の 2014 年 xx 号に掲載された論文を登録して欲しい、等).....	6
	質問 5. 質問 4 で欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを行っていると回答した館に	

お尋ねします。具体的にどのような頻度と方法で呼びかけを行っていますか。（例：年1回業績データベースに基づいて行なっている、月に1回論文データベース等で検索を行なった結果に基づいて行なっている、等）（記述回答）	6
質問 6. 質問 4 で欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを「行っている」と回答した館にお尋ねします。呼びかけの効果はどの程度ありますか。最も当てはまるものを1つだけ選択してください。	7
質問 7. 質問 4 で欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを「行っている」と回答した館にお尋ねします。呼びかけに付随する効果はありますか。（複数選択可）	8
質問 8. 質問 3 でリポジトリ担当者から研究者に対しコンテンツ登録の呼びかけを「行っていない」または質問 4 で具体的な文献を指定しての呼びかけを「行っていない」と回答した館にお尋ねします。今後、コンテンツを指定した登録の呼びかけを実施することを検討していますか。	9
質問 9. 所属研究者からコンテンツ登録の申し出があった場合、出版社ポリシーの確認を行っていますか。	9
質問 10. 質問 9 で出版社ポリシーを「確認している」と答えた館に伺います。出版社ポリシーの確認に SCPJ を利用していますか。	10
質問 11. 質問 10 で SCPJ を「利用している」と答えた館に伺います。SCPJ に対して改善要望等があれば、自由にお答えください。	10
質問 12. 質問 10 で SCPJ を「利用している」と答えた館に伺います。SCPJ では現在、各図書館等からの出版者ポリシー登録・更新を受け付けています。この更新作業に貴リポジトリが参加される意志はおありですか？（ここでいう「更新作業への参加」とは、ご自身でデータ登録を行なっていただくほか、SCPJ プロジェクトに対してメールを送る等、何らかの方法で学協会著作権ポリシーを連絡する場合も含まれます。）	11
質問 13. 質問 10 で SCPJ を「利用していない」と答えた館に伺います。SCPJ を利用していない理由をお答えください。	11
質問 14. 質問 9 で出版社ポリシー確認を「行っていない」と答えた館に伺います。今後、出版社ポリシーの確認を行う予定はありますか。	12
質問 15. 質問 14 で出版社ポリシーの確認を行う予定が「ない」と回答した館におたずねします。その理由を教えてください（複数回答可）。	13
質問 16. 全ての館に伺います。現在リポジトリ運用中で困っていること、課題となっていることがあれば自由にお答えください。	14
質問 17. その他、機関リポジトリ推進委員会に対し活動の要望等があれば、自由にお答えください。	14
5. まとめ	15
別冊	16

2. 調査の概要

実施期間：平成 28 年 2 月 15 日～平成 28 年 3 月 4 日

実施方法：国大図協および国公私立図書館協議会を通じてアンケート参加を呼びかけ、インターネットを経由した Web フォーム回答とした。

調査対象：機関リポジトリを構築済の国公私立大学図書館

回答数：277 機関

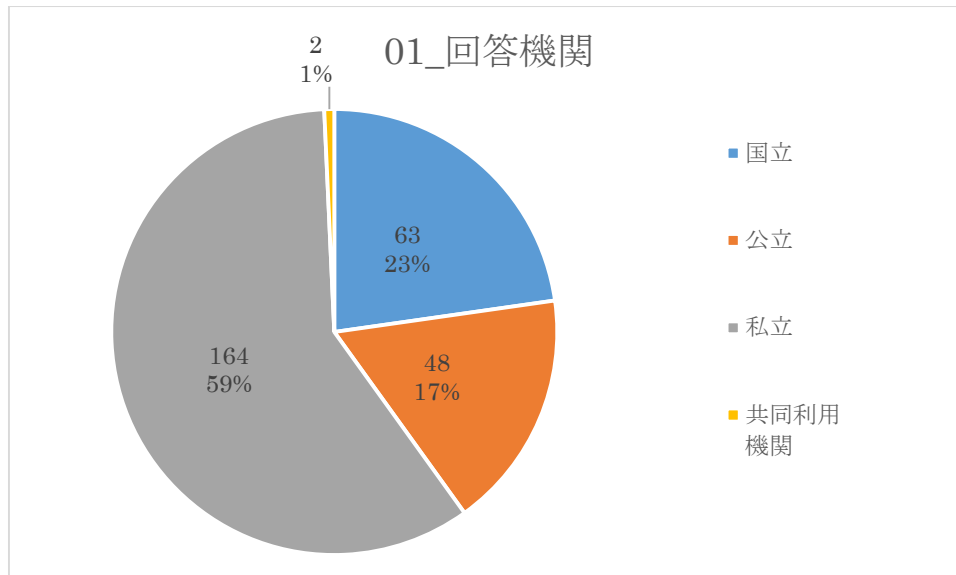
3. 集計に当たっての注意点

記述式回答あるいは複数選択による回答を可とした設問では、合計値が回答機関数と一致しない。アンケートに対し同一機関から複数の回答送信があったものは、最新分を回答とした。

4. 調査結果

質問 1. 貴図書館名をご記入ください。

回答館を IRDB の登録情報と照合し、設置種別で表した。IRDB に登録のある国公私立図書館 485 機関のうち 275 館と、大学共同利用機関 8 館のうち 2 館からの回答が得られた。

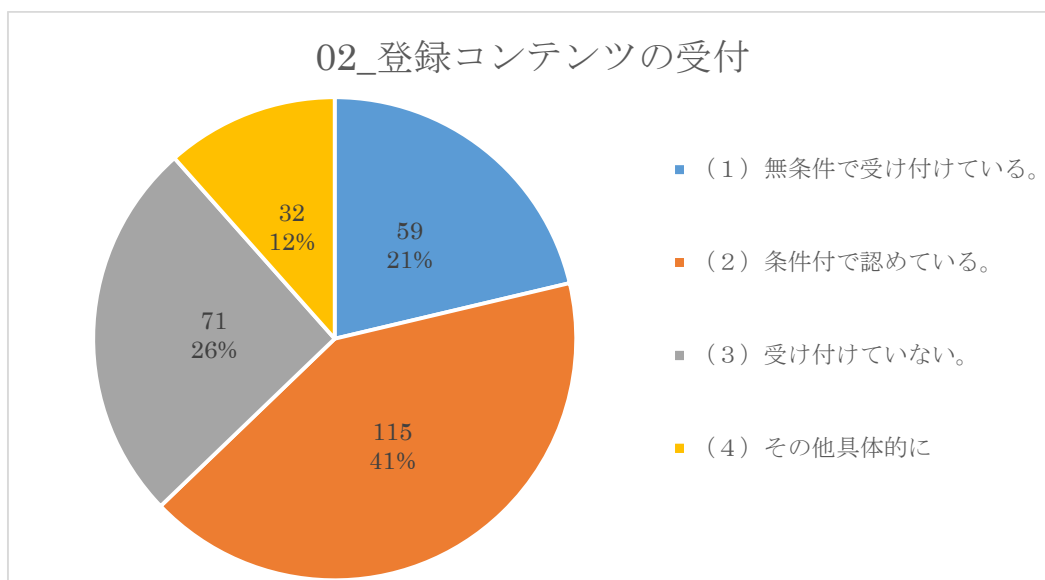


質問 2. 貴館のリポジトリでは個々の研究者から申し出のあったコンテンツ（学術雑誌掲載論文等）の登録を受け付けていますか。最も当てはまるものを 1 つだけ選択してください。

研究者からの申し出によるコンテンツ提供については、6 割の機関が無条件あるいは条件付で登録している。また、(4)においては「検討中」あるいは「申し出がない」とした機関のほかに、10 機関が「紀要掲載論文のみ登録する」等を挙げているが、これは、登録

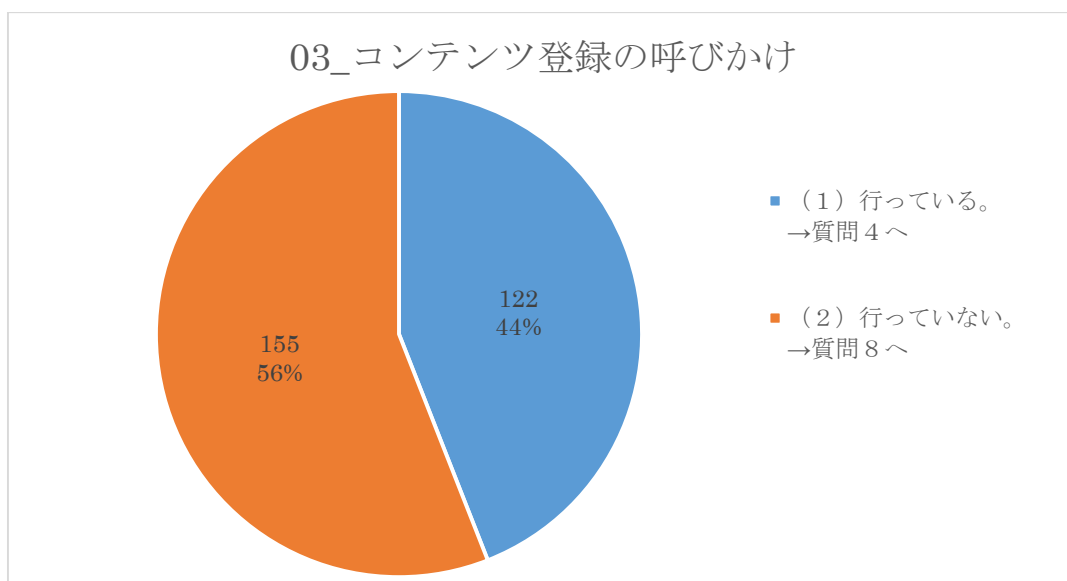
コンテンツが既定されているために研究者からの直接提供を受付対象に含まない運用にしていると考えられる。

「(4) その他具体的に」を選択→記述内容は別冊を参照



質問 3. リポジトリ担当者等から、所属研究者に対しコンテンツ登録の呼びかけを行っていますか。

56%がコンテンツ登録の呼びかけをしていないと回答している。また、質問2で研究者からのコンテンツ提供を受け付けていないとした機関については、その9割以上が呼びかけを行っていない。



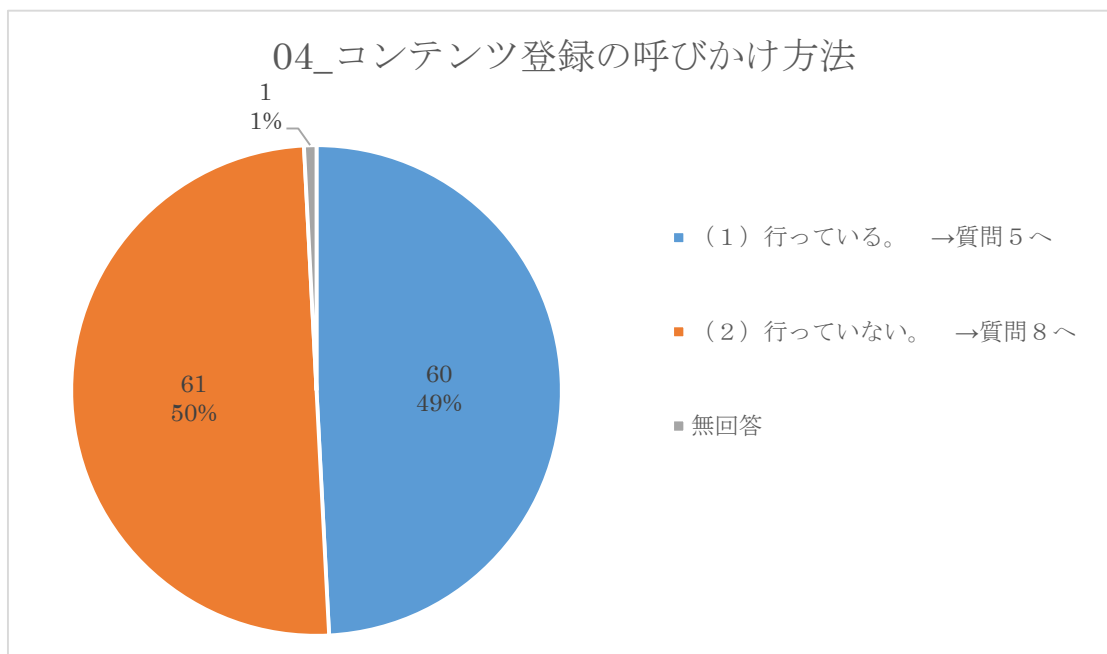
前設問回答との関連：

質問 2	(1)受け付けている	59	質問 3	(1)行っている	41
			質問 3	(2)行っていない	18
質問 2	(3)受け付けていない	71	質問 3	(1)行っている	3
			質問 3	(2)行っていない	68

質問 4. 質問 3 で「行っている」と回答した館にお尋ねします。具体的に登録して欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを行っていますか。（例：XX 誌の 2014 年 xx 号に掲載された論文を登録して欲しい、等）

コンテンツ登録の呼びかけを行っている機関において、呼びかけ対象とするコンテンツを指定するかについての回答は半数に分かれた。

コンテンツ指定をしない呼びかけの実施からは、リポジトリ機能に対する研究者の理解が進んでいる可能性が考えられるが、その場合の登録状況は本調査ではおこなわれていない。



質問 5. 質問 4 で欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを行っているとは回答した館にお尋ねします。具体的にどのような頻度と方法で呼びかけを行っていますか。（例：年 1 回業績データベースに基づいて行なっている、月に 1 回論文データベース等で検索を行なった

結果に基づいて行なっている、等) (記述回答)

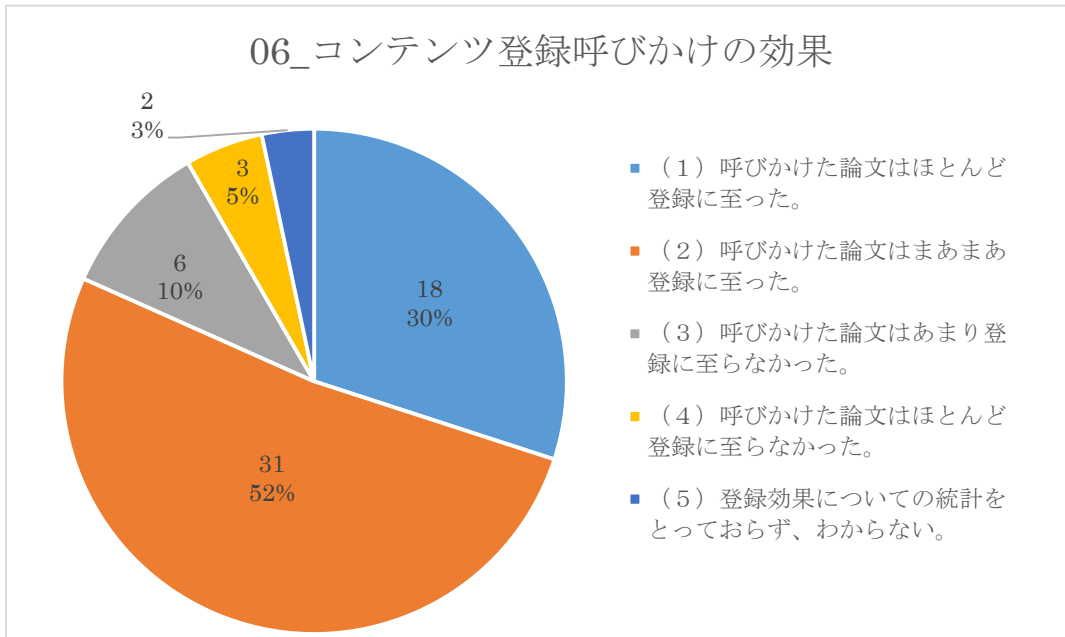
回答にある実施頻度や回数をまとめた結果、年1回が最も多く17機関あった。また、不定期実施としている場合には、「学内紀要発行時」や「リポジトリ側による教員業績の把握時」が多い。その他、指定コンテンツ情報の取得に外部データベースのアラート機能を利用している機関が見られた。

年1回	17
年2回	3
月1回	3
2ヶ月に1度	3
週1回	3
月2回	2
2週間に1度	1
3ヶ月に1度	1
DBからの通知の都度	1
年1～3回	1
不定期	26

回答の記述内容は別冊を参照

質問 6. 質問 4 で欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを「行っている」と回答した館にお尋ねします。呼びかけの効果はどの程度ありますか。最も当てはまるものを1つだけ選択してください。

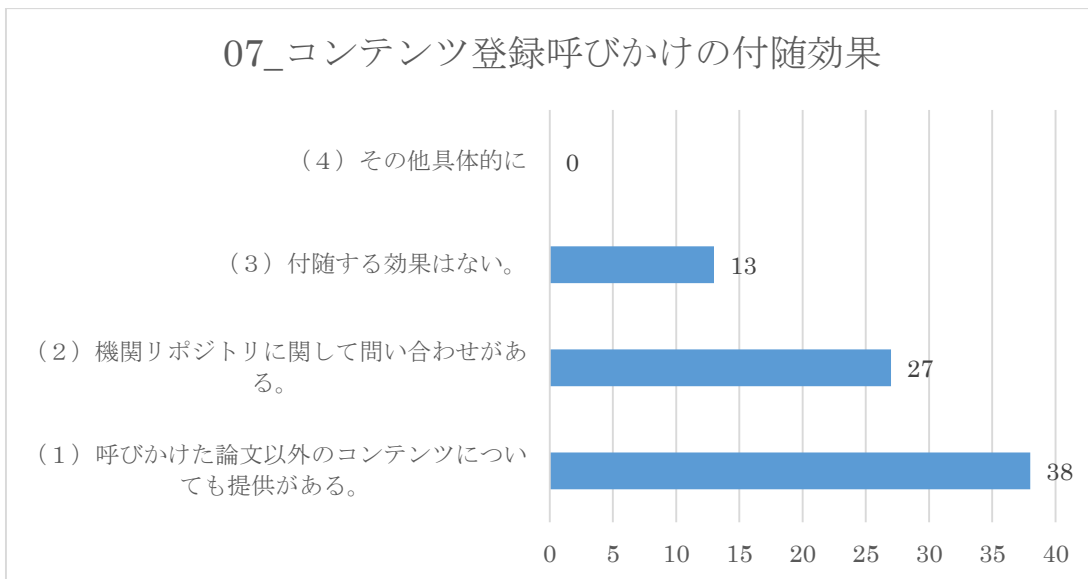
回答 (1) (2) を合わせると、82%の機関が、コンテンツを指定した呼びかけの効果により登録に至ったとしており、指定により呼びかけの目的が理解されやすいと推測される。一方、15%が登録に至らなかったと回答しているが、呼びかけした論文のタイプおよび呼びかけの方法は未調査であるため、この結果差の原因については更なる調査が必要である。



質問 7. 質問 4 で欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを「行っている」と回答した館にお尋ねします。呼びかけに付随する効果はありますか。 (複数選択可)

コンテンツ指定による呼びかけを実行するとした 60 機関のうち 38 館が付随効果を認識している。

そのほか、質問 6 において何らかの呼びかけ効果があるとした機関における本質問での回答状況は下記表の通りである。

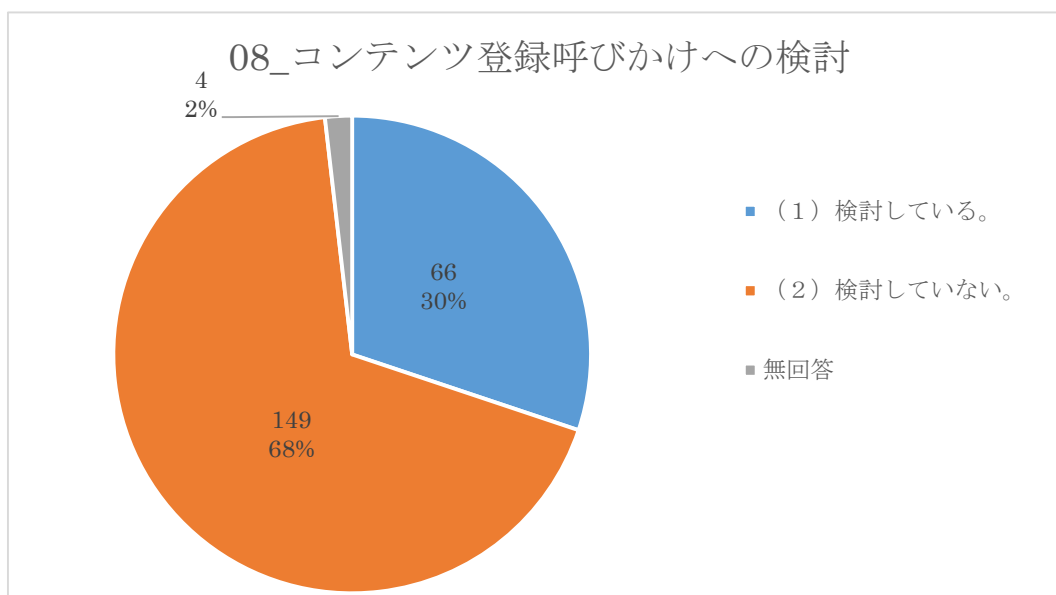


呼びかけから登録に至った場合の付随効果状況：

質問 6	(1) 殆ど登録に至った。	18	質問 7	(1) 呼びかけた論文以外にも提供がある	34
	(2) まあまあ登録に至った。	31	質問 7	(2) 機関リポジトリに関する問い合わせがある	22
			質問 7	(3) 付随する効果はない	8

質問 8. 質問 3 でリポジトリ担当者から研究者に対しコンテンツ登録の呼びかけを「行っていない」または質問 4 で具体的な文献を指定しての呼びかけを「行っていない」と回答した館にお尋ねします。今後、コンテンツを指定した登録の呼びかけを実施することを検討していますか。

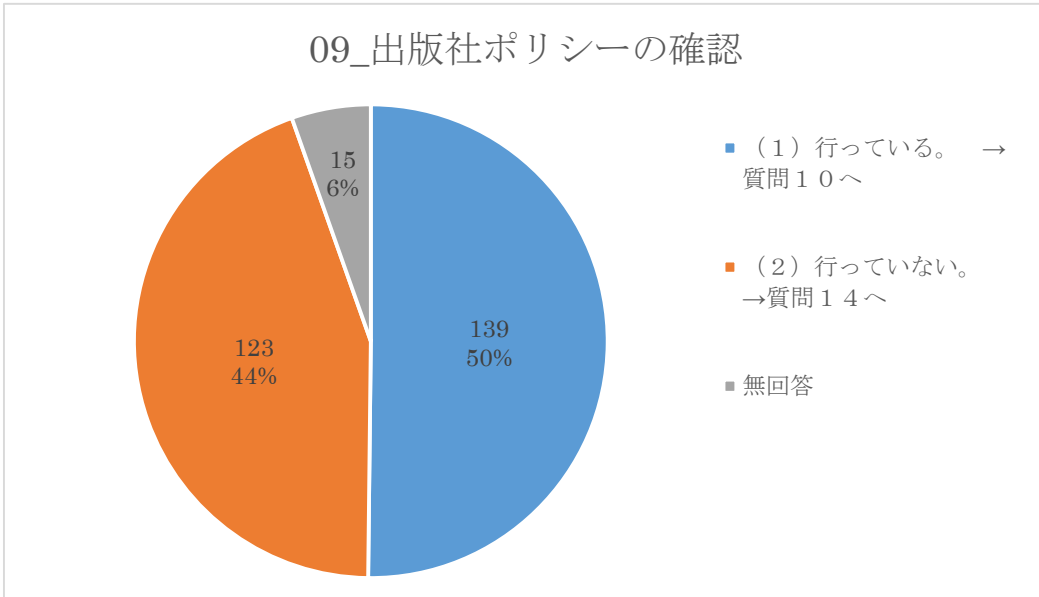
コンテンツを指定した登録の呼びかけを、今後検討するとした回答が 66 機関あるのに対し、今後も検討しないとする機関が 7 割弱の 149 機関あった。



質問 9. 所属研究者からコンテンツ登録の申し出があった場合、出版社ポリシーの確認を行っていますか。

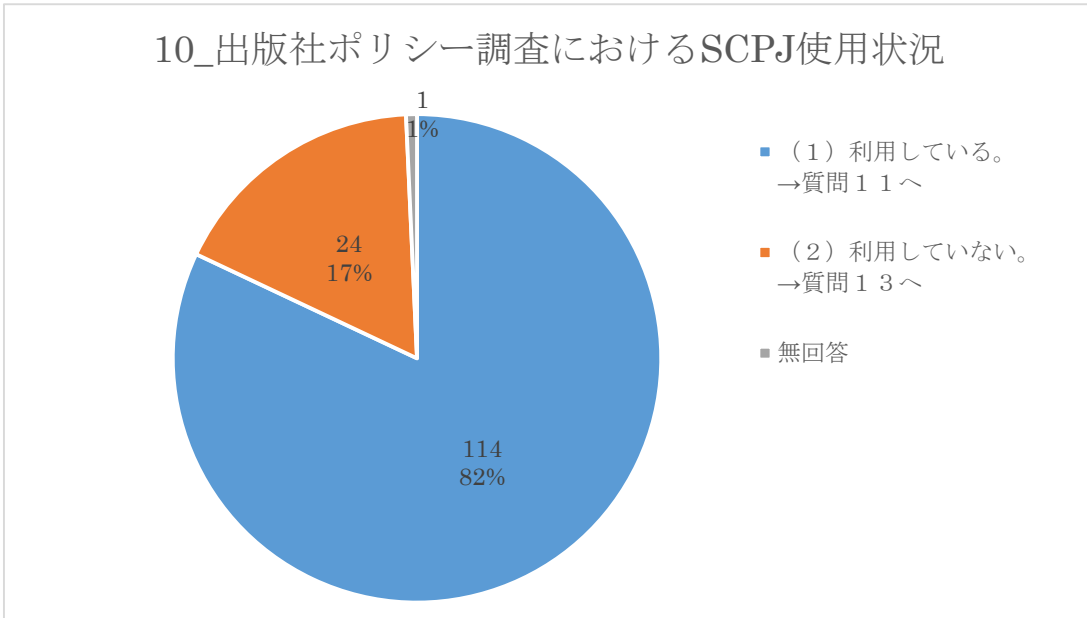
回答結果は 2 つに割れている。

出版社ポリシーを確認している 139 機関中 92 が質問 3 において、コンテンツ登録の呼びかけを行っており、また、確認を行っていない 123 機関中 93 は呼びかけを行っていないと回答している。これは、コンテンツ登録を呼びかける前提として、研究者からの研究成果提供に対するポリシー確認を図書館側の必要手順としている傾向を示すと考えられる。



質問10. 質問9で出版社ポリシーを「確認している」と答えた館に伺います。出版社ポリシーの確認にSCPJを利用していますか。

82%の機関が、出版社ポリシー確認を行う場合に、SCPJを利用すると回答している。



質問11. 質問10でSCPJを「利用している」と答えた館に伺います。SCPJに対して改善要望等があれば、自由にお答えください。

SCPJ登録情報の最新性の確保を求める意見が非常に多い。また、収録データ数の増加や登録範囲の拡大希望のほか、操作性の改良を求める意見もあった。

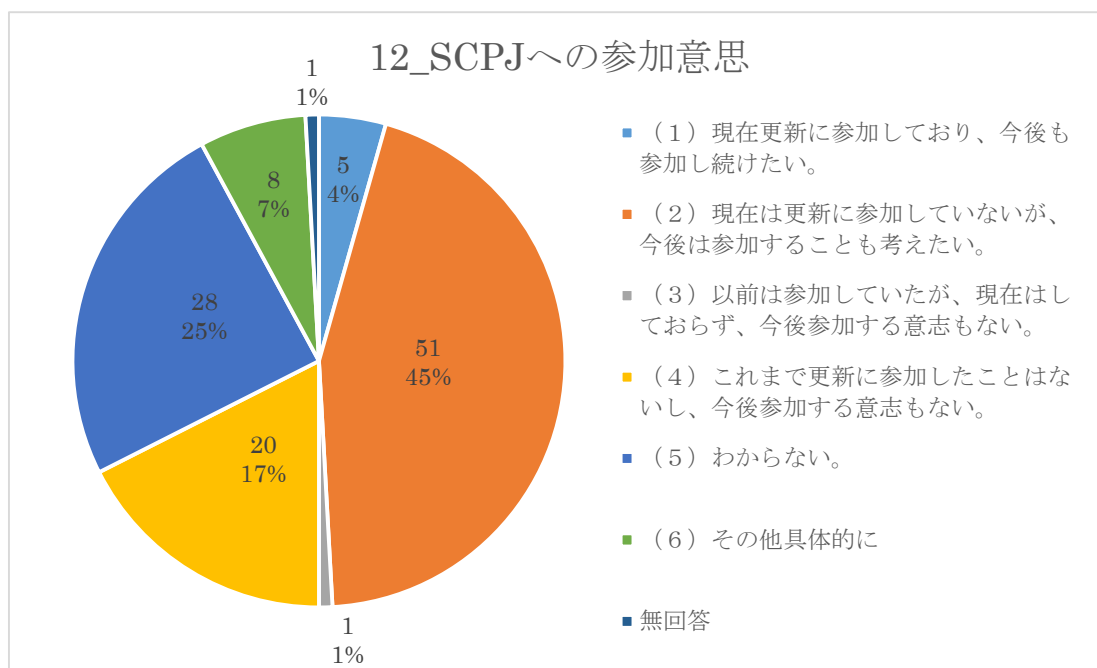
回答の記述内容は別冊を参照

質問 12. 質問 10 で SCPJ を「利用している」と答えた館に伺います。SCPJ では現在、各図書館等からの出版者ポリシー登録・更新を受け付けています。この更新作業に貴リポジトリが参加される意志はおありですか？（ここでいう「更新作業への参加」とは、ご自身でデータ登録を行なっていただくほか、SCPJ プロジェクトに対してメールを送る等、何らかの方法で学協会著作権ポリシーを連絡する場合も含まれます。）

SCPJ を利用する機関のうち、半数近くが情報更新作業への参加意思を示している。他方、これまでの参加実績もなく今後の参加意思がない 20 機関（17%）や、わからないとする 28 機関（25%）がある。

また、回答(6)においては、SCPJ の運営体制を前提とした上で参加の可否を検討したいとする意見が多い。

「(6) その他具体的に」を選択→記述内容は別冊を参照

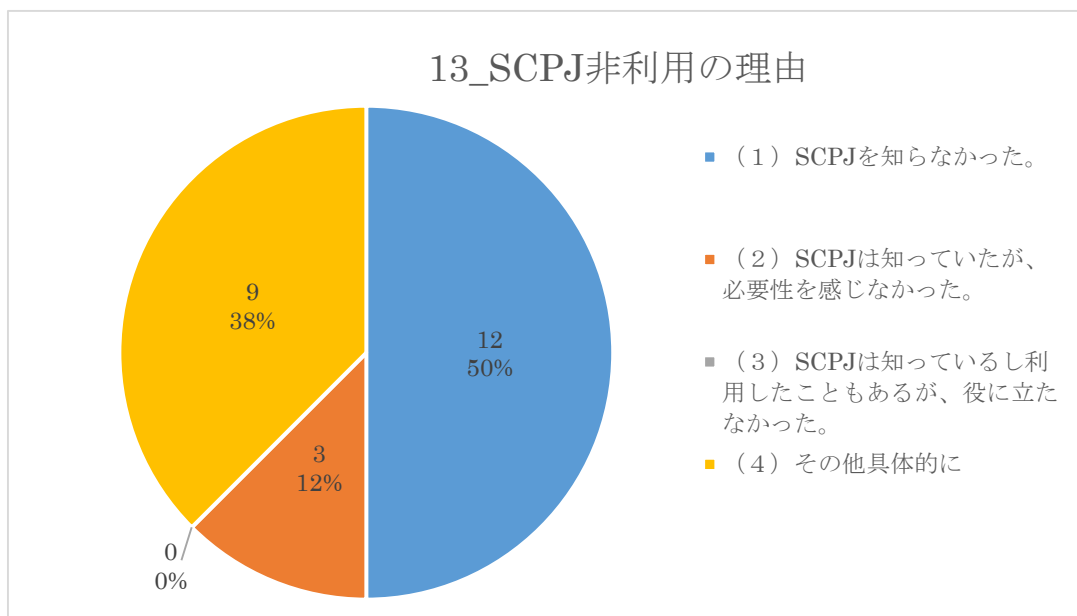


質問 13. 質問 10 で SCPJ を「利用していない」と答えた館に伺います。SCPJ を利用していない理由をお答えください。

SCPJ を利用しない理由として、(1)SCPJ を知らなかったとする回答が 47%であった。(4)と回答した機関の具体的記述には、「登録対象が SCPJ に収録のないコンテンツ（海外雑誌掲載論文、博士学位論文、学内紀要掲載論文）であることや、著者による確認事項と

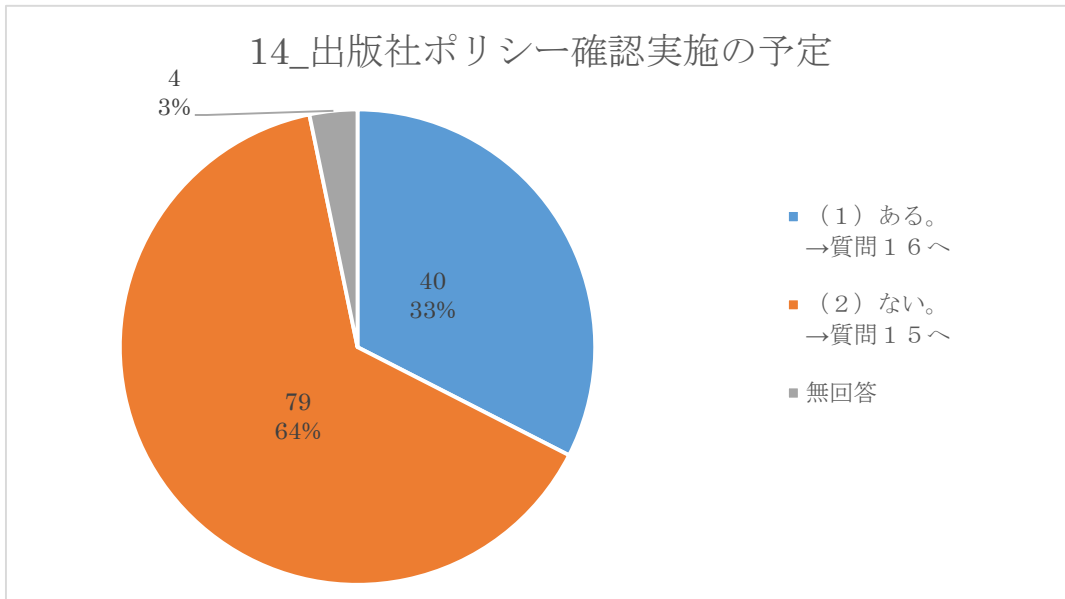
している」といった理由により利用機会がなかったとしたものが多く、(2)の SCPJ を知りながら必要性を感じないとした機関とあわせると過半数を超えている。

「(4) その他具体的に」を選択→記述内容は別冊を参照



質問 14. 質問 9 で出版社ポリシー確認を「行っていない」と答えた館に伺います。今後、出版社ポリシーの確認を行う予定はありますか。

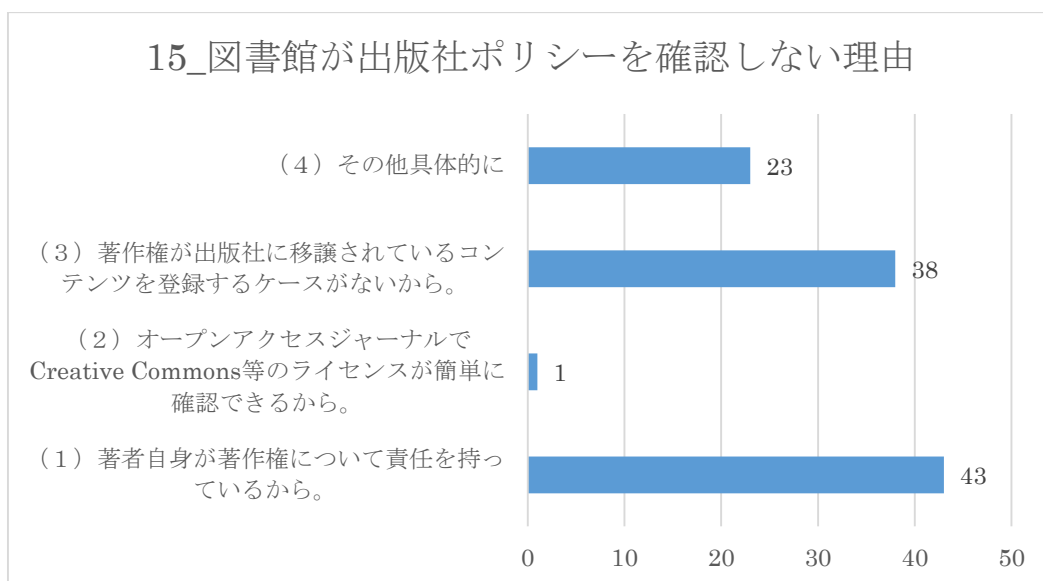
「(1)ある。」とした 40 機関のうち 25 機関が、質問 8 において今後コンテンツを指定した登録呼びかけを実施することを検討している。これは、質問 3 および 9 における登録呼びかけとポリシー調査の関連性と同様の傾向を示すと考えられる。



質問 15. 質問 14 で出版社ポリシーの確認を行う予定が「ない」と回答した館におたずねします。その理由を教えてください（複数回答可）。

回答のうち、単数選択としては(1)の23機関、次いで(3)の22機関、(4)の13機関となっている。一方、複数を選択している場合は(1)と(3)の組み合わせが13機関と最も多い。また、(4)における具体的な記述には、「登録コンテンツを学内資料に限定している」、「ポリシー確認を図書館以外が行っている」とする機関が、それぞれ8機関があった。

「(4) その他具体的に」を選択→記述内容は別冊を参照

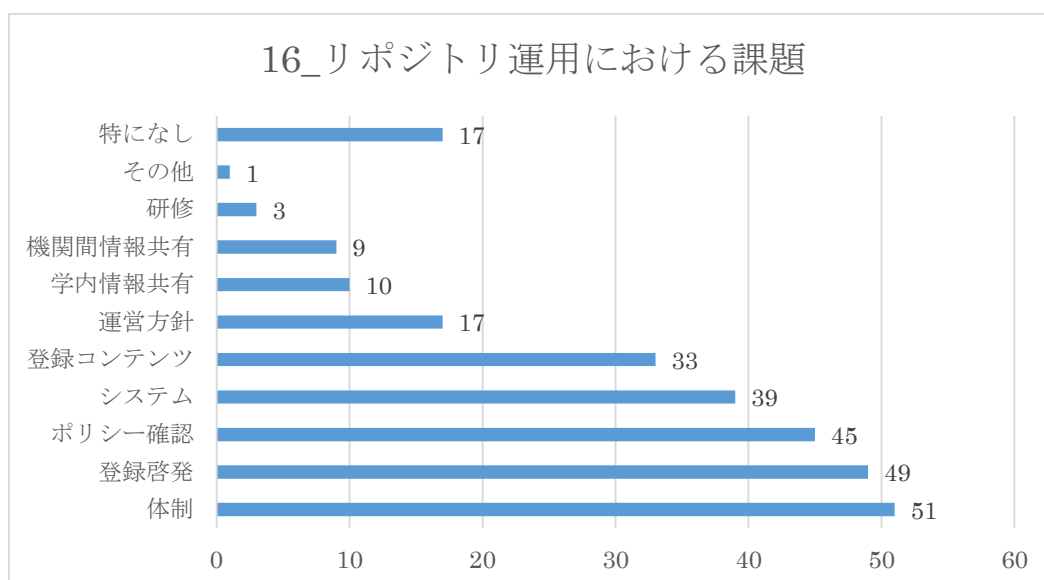


質問 16. 全ての館に伺います。現在リポジトリ運用中で困っていること、課題となっていることがあれば自由にお答えください。

182 機関から回答があった。一つの回答においても複数の課題を含んでいたため、これを更に内容別に分けている。

機関リポジトリを運用する中では、その体制作りや、登録を推進するための啓発活動の必要性、次いで著作権ポリシーの確認をどのように進めるべきか、といったことを課題として捉えている機関が多くあった。

回答の記述内容は別冊を参照

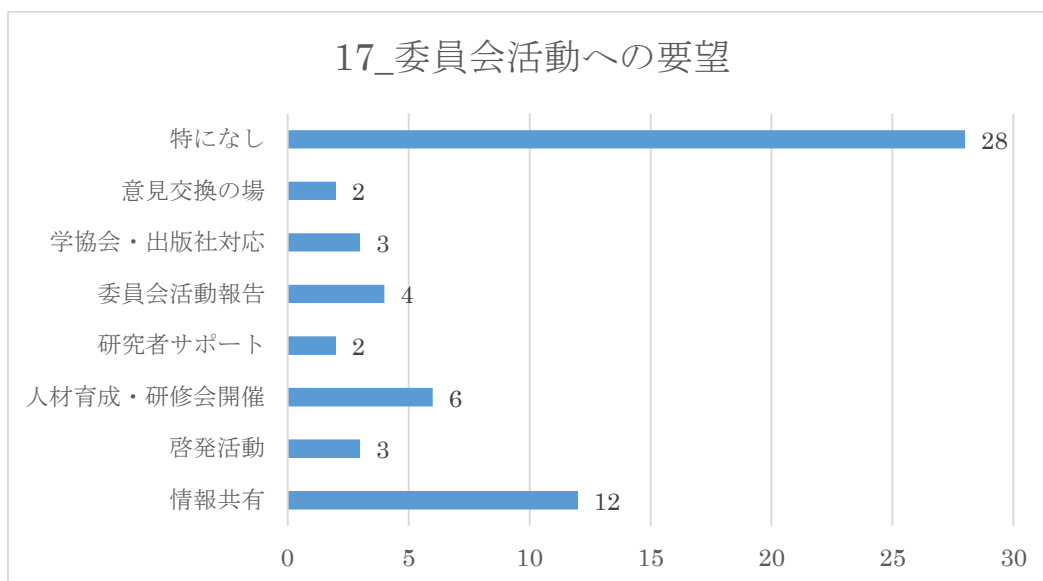


質問 17. その他、機関リポジトリ推進委員会に対し活動の要望等があれば、自由にお答えください。

60 機関から回答が得られた。一つの回答においても複数の内容を含む場合は、更に項目として分けている。

機関リポジトリ推進委員会への要望は、「特になし」とした回答が約半数を占めるが、具体的な要望においては「情報共有」が最も多かった。次いで「人材育成・研修会開催」や「委員会活動報告」等が続くが、それらを委員会としての情報発信と位置づけることにより、機関リポジトリを運営する機関間での情報共有が多く求められていると推測される。

回答の記述内容は別冊を参照



5. まとめ

機関リポジトリのコンテンツ登録においては、登録対象を限定して収集する場合と研究者に対して提供を呼びかける場合とが見られる。

呼びかけについては実施機関の約 8 割が登録につながる効果を実感しているが、ここでは問い合わせ対象とする研究成果が、リポジトリに登録可能なコンテンツであることを予め確認する作業を経ており、これが効果をもたらす要因の一つとなっている。こうした確認作業を実施する機関では SCPJ を用いるとした回答が多くあり、国内学協会の著作権ポリシーを収録する同データベースが、機関リポジトリを通じたオープンアクセス推進の一助になっている様子が見て取れた。

SCPJ を利用する機関からは、その収録情報の最新性や範囲拡大の要望や、データベース登録情報更新への参加意思のほか、新たにコンテンツ提供の呼びかけを検討する機関もあるといった状況は、このデータベースに対し活用するに足るツールという認識があることを示しており、こうした状況を踏まえて今後のデータベース管理を検討する必要がある。

また、本調査においては、著作権ポリシーの確認を研究者による作業と位置づける運用や、著作権ポリシー確認を必要としないコンテンツの登録を主とするリポジトリの存在も判明した。そうした機関が持つ課題については、機関リポジトリ推進委員会として引き続き把握に努めるところである。

別冊

・質問2 貴館のリポジトリでは個々の研究者から申し出のあったコンテンツ（学術雑誌掲載論文等）の登録を受け付けていますか？

(4) その他具体的に

検討中

紀要の登録からスタートし公開したところです。他のコンテンツについては、今後考えていくことになります。

現在まで申し出がない

現在は紀要論文のみ登録している

例がない

機関リポジトリ運用指針及び運用施行細則に則り、登録することが認められているコンテンツを受け付けている。

導入初年度のため、学内紀要と博士論文のみ受付を行っている。

まだ学位論文と本学発行の研究論集の登録に留まっているため、個々の研究者からの申し込みがないため。

現在、紀要論文のみの登録を受け付けています。

現在受け付けていないが、今後受け付ける予定。

申し出がない。

・申し出がない。・申し出があったとしても、現状では規程等整っていない。

運営指針に準拠

今後、受け付ける方向で具体的な方法を検討中です。

本学の紀要に掲載された論文のみ登録している。

規程・運用指針においては可能となっていて委員会の承認が必要であるが、今のところ実績がない。

(回答)大学大学院の博士論文に限る

博士論文および紀要掲載論文のみ

運営指針に合致したコンテンツであり、著作権上公開に問題が無い場合は受け付ける。

本学の学術リポジトリ規程に基づく

学内学会誌、博士論文のみ受付

運用指針及び運用管理に関する申し合わせに定める資料以外は附属図書館委員会に諮る

大学紀要論文、博士論文は受け付けている

事例が発生していない

学内向けの簡易なものの登録は受付をしている。

該当事例なし。

受け付けることになっているが、実績はない。現在は、紀要論文の登録を優先的に進めている。

本学 学術情報リポジトリ運用指針の通り

博士論文及び紀要掲載の論文のみ登録している。

今のところ申し出が無い

現段階では受け付けていない。なお、今後は大学全体に周知するか否かを検討する。

規程上は受け付けることになっているが、未だ紀要の電子化のみで、個々に受け付けた事例がない。

・質問5 質問4で欲しいコンテンツを指定しての呼びかけを「行なっている」と回答した館にお尋ねします。具体的にどのような頻度と方法で呼びかけを行なっていますか？

・2～3ヶ月に1度教員全員へメールでアナウンス ・不定期で文献検索データベースで検索を行い結果に基づいて依頼している

月に2回、論文データベース等で検索を行った結果に基づいて行っている。

業績集に基づいて登録依頼を行う。2008～2013年をまとめて実施し、以降は業績集の発行後に毎年実施。

不定期(機会があればその都度行っている。)

論文データベースのアラート機能を使って最新発表論文を集め、公開できる版を調べた上で、2か月に1度、メールで個別に呼びかけています。

BioMedCentral社から本学研究者から投稿の連絡が入る度に

学内発行誌に掲載されるスポットライト業績に基づいて、3ヶ月に1回程度

本学で発行される「学報」やホームページホームページ等で本学構成員が執筆した論文等が賞を受賞したと公表された時に行なっている。

年に1回程度、各学部教授会等を通じてコンテンツ登録の呼びかけを行なっている。

定期的な呼びかけは行っていない。学術リポジトリへの登録を導入した当初に図書館から各学部や研究機関への紀要等の登録呼びかけを行った。以降は先方からの紀要等(及び要望により、講演会・研修会・その他の論文)の提出を受けつけ、登録している。

不定期に研究業績リスト等からコンテンツを指定して呼びかけを行っている。

2週間に1度、Web of Scienceで検索を行い依頼している。また、学内のFD研修などで、コンテンツ提供の呼びかけを行っている。

週に1回論文データベース等で検索を行った結果に基づいて行っている。

年1回、複数の教員に業績データベース、CiNiiに基づいて行っている。

論文データベース(Web of Science)で検索を行なった結果に基づいて随時行なっている。

最低年1回最新号については公開論文提供を 研究所や学科に依頼している。

新規に発行された学内紀要についてはまず登録をお願いしている。

今までは年1回、登録説明会の開催にあたり呼びかけていたが、紀要論文登録に関しては、今後は各学会からも呼びかけを行うことになる。

各紀要・報告書(年1～2回発行)が発行される度に行っている。

年に1回論文データベース等で検索を行なった結果に基づいて行なっている。

週 1 回 J-GLOBAL で検索を行なった結果および Web of Science Search Alert(週 1 回配信)に基づいて行なっている。

過去に登録実績のある先生を中心に月 1 回程度 学内研究者データベースを検索し依頼業務に合間に(不定期で)業績データベースや論文データベースに基づいて実施している

本学が機関リポジトリを新規導入した 2013 年に1度本学に所属する専任教員に対して登録の呼びかけを行った。業績情報から出版者ポリシーを調査した論文リストを作成し、登録希望を調査した。プレスリリースに掲載された論文の著者に、メールで登録を依頼している。

年 1 回論文データベース等で検索を行った結果に基づいて行なっている

年 1 回論文データベース等で検索を行なった結果と自己点検・評価報告書に掲載している教員業績に基づいて行なっている

教員から論文掲載誌の寄贈があった際、登録の依頼を行っている。依頼方法は、直接もしくはメール。

紀要等の学内刊行物が刊行されるタイミングで編集主体に呼びかけをしている。

・年1回、業績データベースに基づいて行っている。 ・年2~3回、論文データベースで検索を行った結果に基づいて行っている。

年 1 回 J-STAGE などを参考に、学術研究の動向を見ながら、メールで依頼を行っている。

図書館職員が気づいた範囲のコンテンツについて、不定期に呼びかけを行っている。

随時実施している。

年 1 回研究者データベースに基づいて行っている。

年1回、博士論文に係るデータの提出を依頼

不定期(過去に1度実施)

教員が研究者データベースへ研究業績を登録する際に、機関リポジトリでの公開を許諾するかどうかを選択する機能を実装している。

論文データベース、講座のホームページの業績集をチェックした結果に基づき、随時メールで登録を依頼している。

SCOPUS アラートの結果に基づき、毎週行っていたが、人員削減による業務縮小に伴い今後の呼びかけは保留とする予定。

定期的には行っていないが、情報を入手したときに出版社ポリシーを確認の上、大丈夫なものに対し著者に呼びかける。

・大学学会誌、紀要については原則として掲載論文のすべてを登録。 ・年 2 回発行の大学学会誌掲載の業績録の原著論文について、学内図書館ホームページでの募集案内と教員への募集案内メールの送付。

学会単位に搭載の呼びかけを行っている

学内学会誌:年2回の学会誌発行時

頻度は不定期。業績 DB や論文 DB の検索結果に基づいて実施。

頻度は不定期。大学ホームページに掲載された受賞論文があれば都度依頼している。

各医学賞を受賞した研究者を、(随時)広報などでチェックし、個別に連絡を取っている。
過去に年1回 CiNii 等で検索した結果に基づき呼びかけを行った。(近年ではしていない。)
年1回業績データベース及び論文データベース検索結果に基づいて行っている。
年1回大学評価データベースに基づいて行なっている。
頻度:2カ月に1回程度 方法:Cinii で検索した結果に基づいて発行年、出版社等を踏まえ抽出
年1回業績データベースに基づいて行なっている。また、6カ月に1回論文データベース等で検索を行なった結果に基づいて行なっている。
随時、館員がコンテンツを発見した都度行っている。
月に数回程度、業績データベース及び文献データベースを調査し、その結果に基づき行っている。
年1回会議等で声がけしている
学内刊行出版物掲載コンテンツを対象にして、2カ月に1回、申請書を送付している。
紀要発刊後、登録している。
5月頃、科研の報告書を登録する際に研究成果、発表の項目をチェックし、合わせて登録することを勧めている。
年数回論文データベースで検索を行った検索に基づいて行っている
年1回大学に設置された論文は本人の了解を得て、ほとんど登録
週に1回論文データベース等で検索を行った結果に基づいて行っている。

・質問11 質問10でSCPJを「利用している」と答えた館に伺います。SCPJに対して改善要望等があれば、自由にお答えください。

ポリシーがGray(検討中)又は(無回答)の学会について追跡調査を行なっているのかいないのかが分かるようになっていないかと思う。

もっと新しいデータが入り、対象範囲が広がればとても助かります。

・速やかな情報の更新 ・非掲載タイトルの追加

データ確認日5年位を目安に新情報を確認して更新してほしい。担当が非常勤職員のため、SCPJデータが最新の学会の回答と違うことを確認した際に情報提供は行いたい、自身でのデータ登録は控えたい。

システムというよりは、ポリシーを明確にする団体、刊行物が増えてもらいたい。

特になし

データ確認日が古い場合は直接出版者に確認をとっています。頻繁に更新されるようになると、なお良いと思います。

学会のポリシーが不明なケースが多い。SCPJと学会でポリシーに相違がある。

特になし

公開条件が分かりづらいことがある。

海外の出版社から出版されている雑誌に関する情報が、出版社サイトの情報と合わないことがある。

「新着情報」について 1)現在4件しか表示されないが、過去の情報も見られると良い 2)追加・修正情報から該当ページへリンクされていると良い

研究者自身の関心を高めるためにも、もっと研究者に対してのサービス周知を行なってほしい。

掲載雑誌の拡大

ソースが古い場合が見受けられる。

最新の情報が参照できるように定期的に更新してほしい

・ISSN 検索時、ハイフン付きでも結果が出るよう改善いただきたい。 ・登録されているポリシーを一括ダウンロード可能にいただきたい。 ・出版社によっては雑誌毎のエンバーゴ一覧を Web で公開しているので、そのサイトへのリンクがあるとよい。(Elsevier, WILEY, T&F など)

特にありません

なし

著作物の一覧表がエクセルファイル等で提供されれば、複数件の確認を一気に行う際に手間が省けると思う。

掲載されている情報(出版者ポリシー)が常に最新の状態に維持されていると良いです。現在は、リンク集として利用しています。出版者ポリシーは、リンク先の学協会のサイトを確認しています。

特にありません

「データ確認日」から時間がかかり経過しているものがあるため、出版者ポリシーに変更がない場合も含めて、各図書館が再確認した日を手軽に更新できる仕組みがあると助かります。

ポリシーが gray(無回答)が多い。再度照会する等、改善してほしい。

特になし。

現在、機関リポジトリ登録の際に SCPJ を利用して学協会著作権ポリシーを確認している。しかし、ポリシーが「Gray」であった場合、弊社から各協会等へメールにて問い合わせを行い、リポジトリ掲載の許可をいただいた上で機関リポジトリとして公開している。ただ、問い合わせを行っても各協会から回答がない場合がまれにあるため、この点を改善していただけると機関リポジトリの登録および公開作業がスムーズに行える。

・商業出版社ポリシーの追加 ・ポリシー変更への対応強化

出版者版を登録可能であった場合に、PDF等ファイルの提供の可否について、学協会詳細情報に記述していただけると助かります。

難しいかもしれないが、典拠として学会等の生の回答が閲覧できると、学会の意思がより正確に理解できるので有り難い

特にありません

著作権ポリシーに変更が生じた場合、変更事項の通知をお願いしたい。(例:Gray から Blue へ変更したなど)

・現状では学協会による直接の入力とは限らない枠組みであり、また確認日が古いデータがあるため内容に確信が持てず参考程度の扱いとする事が多いです。このような DB はデータの信頼性、もしくは誤ったポリシーに基づきコンテンツを登録してしまったときに正当化できるストーリーが作れることが肝心かと思います(学協会サイドのポリシー登録ミス・更新忘れなど)。・学協会などでもあまり考えていないかもしれませんが、ポリシー変更があった際、過去のコンテンツに対する扱いが分からないことがあるのでその点もわかれば良いと思います。

特になし

データ確認日が古いものの中でホワイトやグレーになっている学協会の情報更新

会議発表論文の公開ポリシー調査に時間を要しているため、SCPJ にポリシーが搭載されているとありがたい。

・以下の条件が、現在そぐわないと思われる学会がある等、データ更新が必要であること。「機関リポジトリに搭載する際は、次のメタデータを記述してください。

<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/info/nii.html>」・各雑誌から電子版サイトへのリンクがあると便利
ポリシー情報が古く、出版社サイトで調査しなおすか直接問い合わせを行っている。結果、許諾をとれる場合が多い。

情報が古いことがあるので、新しいポリシーを掲載して欲しい。

修正をメールで連絡しているが、対応に時間がかかるので改善して欲しい。

SCPJ 上において、SHERPA-RoMEO の見方をまとめたコンテンツを作成していただきたいです。

グレーが多いのが問題。

データ確認日から数年たった情報もある。せめて2年に1度程度の更新があると安心できる。

より多くの学術雑誌、学会誌に参加を呼びかけていただき、収録誌を網羅して欲しい。

ポリシーが Gray になっているデータを減らしてほしい。

特にありません

Gray(検討中・非公開・無回答・その他)が多すぎる。内容の充実を希望する。

・回答年月日が古いものがあり、現在もその方針であるか不安になる。現在は SCPJ の調査に従い登録可否判断を行っているが、定期的な更新があるとよい。・White になっているが、条件を満たせば OK だったケースがあった。学会の担当の方が定義を良くご存知ないこともあるようなので、回答の際にサポートが必要かと思う。

未回答機関のポリシー更新

特になし

学位論文に使用する場合の利用・リポジトリ掲載条件を知りたい。無回答の学会が多いので、回答学会を増やして欲しい。

質問9の出版社ポリシーの確認は、所属研究者が行ってから登録の申し込みをする流れになっています。

特にありません。

・確認日が古い ・掲載内容が学会へ直接問い合わせたものと相違がある

今後も検索できる雑誌を増やし、なるべく最新の情報を御提供いただけるようお願いいたします。

特にありません

学協会系以外の出版社にも対応していただきたい。

「検討中」がなくなることを期待します。

学協会の名を冠し、実質出版社が出している学術誌に対し、ポリシーの見直しを促して欲しい。

SCPJ で著作権ポリシーが確認できる学協会の数を増やしてほしい(特に人文社会学形の学協会誌)

Gray の学会について、再度の調査をお願いしたい。

・質問 12 質問 10 で SCPJ を「利用している」と答えた館に伺います。SCPJ では現在、各図書館等からの出版者ポリシー登録・更新を受け付けています。この更新作業に貴リポジトリが参加される意志はおありですか？

(6) その他具体的に：

SCPJ をとりまとめるためのスタッフとなる館は必要だと思いますが、出版者ポリシーの登録・更新はスタッフにならなくても登録できればもっとたくさん情報が集まると思う。「スタッフになる」ということが敷居が高く感じる。

重要性は認識しているので、データ登録について今後リポジトリ推進委員会(協会)において体制の整備を進めてほしい。

リポジトリ担当者が非常勤職員 1 名のみなので、責任を持つての登録作業はできないと考えています。

通常業務に支障がない程度のデータ更新等ならば参加する意思はある。

通常業務の負担にならない範囲であれば検討したい。

調査作業を業務委託しているためどうするか検討したい。

公式には更新に参加していませんが、以前、ポリシーに関する情報をメールで提供したことがあります。今後も随時気がついた情報を流すという立場で活動したいと考えております。

機関リポジトリへの登録が、主に紀要論文であり一般学術論文の登録が少ないため、更新作業に携わる機会がない。

・質問 13 質問 10 で SCPJ を「利用していない」と答えた館にお尋ねします。SCPJ を利用していない理由をお答えください。

(4) その他具体的に：

SCPJ は知っていたが、たまたま活用する機会がなかった。

研究者本人が確認を行う。研究者が SCPJ を利用しているか不明。

たまたま掲載文献の著作権が著者にあることが明白だったため

本学研究者の投稿先が、海外の学術雑誌であることが多いため、SCPJ をあまり利用していない。

SCPJ が扱っていない雑誌だったため、個別に調査をした。

所属研究者よりコンテンツの登録申請がなかった為

著者本人で著作権の確認、または許諾手続きを行っているため、利用していない。

検討中

SCPJ を知ってはいたが、詳細には知らなかったため利用に至らなかった。

・質問 15 質問 14 で出版者ポリシーの確認を行う予定が「ない」と回答した館にお尋ねします。その理由を教えてください（複数回答可）。

(4) その他具体的に：

現在のところ本学の出版物以外に掲載されたコンテンツを登録する予定がないため

現時点で登録を行っていないため

図書館は登録作業のみ行う体制となっているから。

リポジトリ登録申請書に関係者(機関)から許諾を取っているかのチェック項目があり、そこで確認している。

該当例がない。

登録する際、提出する書類に著作権に関しては自身で確認した旨を記載する欄がある

現在、コンテンツ登録の申し出がないため

コンテンツ登録の申し出があれば確認すべき事柄であるが、その場合でも、著者自身で対応していたかどうか、図書館で対応するか取り決めを検討する必要がある。

出版社ポリシーの確認は申し出人の責と考えている

当館では、機関リポジトリへの登録は学内紀要と博士論文のみとしており、学内紀要については、各部署で著作権処理を行っているから

自学の論集と博士論文の登録のため

論文の書誌情報(論文名、雑誌名、巻号等)、リンク先のみ掲載しているから。

著者自身に出版者のポリシーを確認してもらっている

当面は本学出版物の論文と博士論文に限っての登録であり、許諾は出版委員会で取っているため。

方針が決まっていない

コンテンツ登録やポリシー確認を業者に依頼しているから

著作者からデータを受け取る担当係が図書館ではなく、図書館は著作権に絡んだ諸々の項目がチェック済みのデータを受領しているため。

現在、所属研究者からコンテンツ登録を受け付けておらず、受け付けた場合について回答できない。

特定の紀要のみ、登録しているから。

現段階では大学全体で作成した「紀要」や博士学位取得論文のみを掲載しているため出版者ポリシーの確認は、登録を希望する研究者自身が行うことを前提としているから。公開の投稿規定のある学内学術紀要を出版者から受け取って公開している。未だ紀要の電子化のみで、受理の事例がない。紀要については投稿規定による一括許諾済。

・質問 16 現在、貴リポジトリを運用されている中で困っていること、課題となっていること等があれば、自由にお答えください。

紀要を中心に運用しているが、今回アンケート内容をまさに検討中でした。情報収集を近隣館などでおこなったが、組織的な対応をいただけるのではないかと存じ、貴機関リポジトリ推進委員会に対し対応をお願いしていたところでした。アンケートにつき集計結果をいただいた後、具体的内容(例えば「登録申請書式」)をお尋ねいたすかと存じますので、その説はどうぞよろしくお願いいたします。コンテンツの充実(コンテンツ数を増やす)、リポジトリ認知度アップ

①著作権の確認を本人に任せているが、不安がある。しかし図書館職員がその確認に割く時間は少ない。②本学紀要の掲載を始めたところだが、現在は任意での掲載のため、同意する教員が少ない。③博士論文について全文公開できない理由があるとしたものについて、進捗を連絡してこないものがあるため、非公開のままである。

コンテンツ登録の呼びかけの必要性を感じていますが、なかなか体制が整えられずにいます。今後の課題です。

特になし

コンテンツの充実に向けて、大学側にどう働きかけ、連携していくかが課題である。

学内における他のコンテンツ登録システムとの連携を今後検討する必要がある。

・コンテンツの登録作業の省力化(他データベースからの取り込み機能の強化) ・重複コンテンツの登録回避(重複チェック機能の強化)

リポジトリ登録作業に関して、学内調整が計画通りにスケジュールが進まず、体制が整っていない。紀要論文が多くなったが、教員個人の研究論文が少ない。今後、教員個別に情宣が必要だが、広報ツールを作成するたびにシステム的大幅変更が余儀なくされるケースが続き、広報展開を足踏みしている。

学協会誌の著作物をリポジトリに搭載する際の学内規定がない。

・登録コンテンツの充実 ・学内外への周知

論文の登録件数が少なく、今後いかに内容を充実させるかが課題である。

・期間リポジトリのポリシーが確立されていないので、コンテンツの拡充もできず、認知度も低い。 ・個々の論文の許諾をとるのが、非常に煩雑である。

専属の担当者がいるわけではないため、登録作業がなかなか進まない。

担当者が非常勤職員1名のみで、その資質によって登録がかなり左右される。

登録作業や機関リポジトリ運用などを1人で行っており、ミス等ないか不安

本学では、現在のところ機関リポジトリの運用を行っておりません。早急に対応したいと思っております。

教員からの自発的な論文提供を増やしたい。また、メタデータについてこれまで最低限の情報入力だったが、より精度を高めたい。

日本の出版社(学協会を除く)のポリシーを確認できないことが多い。

任期制の司書(職員)のみの配置のため、常にリポジトリについて初級の研修を受講する必要がある。道外の研修の場合、旅費がかかる。

特になし。

出版社ポリシーを確認するにあたり、誤った判断や多くの時間を費やすことが懸念されるため、他大学と同業務の分担化・効率化を図り、学術雑誌掲載論文公開に向けた運用体制を整えることが課題となっている。

特にありません。

今後、論文以外のアイテム(画像ファイルや動画)の登録増が予想されるが、前例が少ないため作業時に迷うことが多い。

・本学発行の紀要に発表された論文をのちに何本かをまとめて単著として出版された教員から、この本に収録している機関リポジトリ掲載の自分の論文を見られなくしてほしいとの要請があった。このような場合、他館ではどういう対処をとられているのか知りたい。 ・論文に楽譜が記載されている場合、他館ではどのように対処しているのか知りたい。

利用状況統計の確認方法がよくわからないので、マニュアル等があれば便利。

コンテンツの充実化(特に学術論文)とオープンサイエンスへの対応が課題

出版社・著者との著作権関係の許諾手続き&事務連絡が煩雑で業務負担になっている。

担当者が交代していく中で、出版社ポリシーの調査ノウハウをどのように継承していくかが大きな課題である。

本学の現状からオープンサイエンスへ移行するのに際して、学内調整等で参考となる他大学の事例を知りたい。

非デジタル文献のデジタル化とメタデータの作成登録

・人材の育成 ・オープンアクセスを巡る激しい状況変化への対応

コンテンツを収集するためにも、学内周知を徹底し、リポジトリの認知度を上げることが課題です。

指定したデータ様式で提出されないこと

オープンアクセスの推進を踏まえた、全学ポリシーの策定。

過去の紀要の電子公開をする際の著作権処理

掲載の打診をしたが、レスポンスのない編集主体がある。また、研究者データベースとの連携が今後の課題である。

リポジトリも含め、図書館に係る情報処理に強い人材がいない中での手探りでの運用。加えて、館員が少ないため、他の業務に追われてリポジトリの登録作業等になかなか手が回らず、充実が難しい。(しっかり管理したいのですが…。どんどん後回しになってしまっています。)

・アクセスログの解析方法について ・今後、コンテンツの拡充を行うか否か ・DOIの付与について

・現在、研究紀要だけの公開で手一杯で、登録コンテンツの増加を行うための体制をなかなか取れない。 ・学内のリポジトリに対する意識や理解が十分ではなく、担当者のやる気にかかっている側面がある。

広報、研究支援部署との連携

(1)doi の記述方法 (2)データのバックアップ方法

コンテンツのリクルートをするべきか否か

出版者へポリシーの問い合わせにおいて、何度か督促しても回答がなく、登録を控えざるをえないコンテンツがある。

もっと積極的に論文登録を呼びかけたいが、教員、図書館とも予算がない。

・出版社ポリシーの調整を踏まえた広報・利用促進の方法 ・有償化など JAIRO Cloud の体制移行への対応

①登録希望者が少ない。 ②著作権の処理について、執筆者の自己申告によっている。

機関リポジトリやオープンアクセスというものについて理解を広めることができず、コンテンツ提供のよびかけも効果的に行えていないと感じています。

特になし

ある程度のスキルが必要であり、担当者に負担がかかりすぎる傾向にある。また、そのため人員不足に陥る可能性がある。

課題：データバックアップ体制の強化

JAIRO-Cloud のアップデートに伴う設定変更等について、担当者が他業務との兼務で追いきれないこと。

機器・システムの更新、人材養成、著作権処理の労力と時間確保が課題になっている。

・オープンアクセス方針の運用に向けた実施要領の整備 ・オープンデータへの対応

・JAIRO Cloud への移行を予定しているが、図書館職員だけで作業ができるか確信がもてないこと。 ・研究者 DB の論文リストから、機関リポジトリ登録のためのメタ a データを作成している。教員が入力するデータの質が良くない場合があるなど、データ修正・加工に非常に手間がかかること。次年度からは研究者 DB の入力補助に WOS 等を使用できるようにシステム更新するので、幾分改善されるとは思われる。

リポジトリシステムの保守, 更新

研究者の自発的な投稿にむけてのルール、運用方法の整備

学位論文公開はしたが、学内でのコンセンサスが図れていないため、有効活用ができていない。
著作権ポリシーの確認が難しく時間がかかる。特に海外出版者については時間がかかる。

・オープンアクセスポリシーの策定が課題である。 ・DOI 登録方針の策定及びシステム実装が課題である。 ・教員が研究者データベースへ研究業績を登録する際に、機関リポジトリでの公開を許諾するかどうかを選択する機能を実装しているが、広報が不十分で、許諾件数が伸び悩んでいる。 ・DSpace に本学独自のカスタマイズを行っているため、DSpace のバージョンアップや JAIRO Cloud への移行ができるか不安がある。

JAIRO クラウドへの移行の検討。 リポジトリ登録数を増加させること。

著者からの許諾の反応が薄いこと、出版社に問い合わせをしても返事が遅いことが悩みである。

特になし

リポジトリへの登録コンテンツ不足。 著作権処理手続きの煩雑さ。

・専任担当者不在による業務の縮小化。 ・著作権調査に時間を要する。

特になし

学内刊行物(紀要等)のリポジトリ登録件数を高めるためには、著作権の許諾手続きの簡略化が課題であると考えています。その方策のひとつとして、各発行元に対し、その投稿規定等リポジトリ登録に関する著作権の許諾を得る文言を明記していただくよう働きかける予定としています。

・所属研究者のコンテンツ(特に学術雑誌)の収集方法、同姓同名の判断の効率的な処理が課題となっている。 ・リポジトリの統計データの整理(本来のアクセス数の取得)が課題となっている

システムの更新(移行)

出版者ポリシーの確認と共著者への公開可否確認が煩雑であること。

【課題】 ・積極的な広報活動ができていないこと。 ・広報活動と繋がりますが、登録されている論文がほぼ紀要と博士論文だけであること。

博士論文の公開時の画像等の著作権処理がきちんとできているのか心配な点。

・大学のオープンアクセス方針策定に関与すること。 ・公的研究資金を用いた研究成果を機関リポジトリで公表するための運用フローを検討すること。

特にありません。

人手が足りない

思うように論文が集まらずコンテンツが充実していない。 リポジトリが十分に学内で認知されていない。

1.JAIRO Cloud を使用しているが、メタデータ入力マニュアルがない事。(各大学の判断に委ねられている項目が多い) 2.JAIRO Cloud の有料化
コンテンツをどのように充実(収集)していくか。

著作権処理の担当と手順が明確でないこと

特にありません。

英語化 学会の雑誌サイトとして機能すること

紀要論文以外のコンテンツの収集も行いたいですが、なかなか集まらない。

リポジトリ登録件数の拡大につながる研究者データベースとの効果的な連携の実現が課題となっている。

特になし。

現在は紀要掲載論文のみを登録しているが、今後は雑誌掲載論文や学会発表資料等、多様なコンテンツの提供依頼を呼びかけ登録を進めたいと考えている。

新任者がマニュアルを見ても操作が難しい場合がある。基本操作に加えて、新たな操作が行えるよう一般的な研修の機会を設けて欲しい。

コンテンツが集まらない。 出版社ポリシーの確認が非常に煩雑。問合せをしてもすぐに回答がない場合も多い。

著作権、肖像権等の各種権利関係のクリア判断が執筆者において異なっている場合があり、掲載前にその確認に手間取る場合があること。

音楽演奏動画などを公開したいがダウンロード方式のため、容量が大きくなりすぎて、現実的ではない。このリポジトリとは別にたとえばストリーミング方式の公開用サイトを構築するには、課題、費用、労力が大きすぎる。

コンテンツの確保。アクセス統計の信頼性。

・ハンドル固定のため DSpace を使用しているが、検索等ユーザーインターフェースに不満がある。システム更新が近づいており、次期システムも DSpace を継続するが悩ましい。 ・研究者同定のため、独自の著者IDを付与しているが、学内の研究業績データベースと連携していない。

オープンアクセス方針の策定、リポジトリの周知

担当者が他部署との兼務のため、新規の登録までなかなか手が回らない。サポートのため、もう1名が研修に参加したが、その後実際にやっていないために学んだことを忘れてしまい、手が出せないでいる。少ない人員でも立派に運用している図書館はたくさんあるので、人手不足を理由にはいけないのだが。

・学内の周知が足りていない。 ・学術誌の登録数が少ない。

人員、予算、先生の協力

特にありません

infolib から JAIRO Cloud への移行

最小限の運用にとどまっているのが現状であり、課題です。

学術雑誌掲載論文を使用した学位論文のリポジトリ公開について

アイテムタイプを新しく作成する時のメタデータ編集やマッピング設定の基本的な知識がなく繋がりなどよく解らないので、実践をまじえた講習会を開催していただきたいです。

・共著者への登録許諾確認や出版社への連絡が多く、回答が得られない場合に作業が停滞すること。 ・上記作業中の業務用データ管理が煩雑なこと。

現在は博士論文の要旨のみしか登録がなく、今年度中に紀要等に対象を広げていく予定のため、今後さまざまなケースが出てくると考えている。

機関リポジトリシステムの JAIRO Cloud への移行

特になし。

・リポジトリ業務専従のものが居らず、積極的ではない　・リポジトリ＝「システムの・難しいもの」といったアレルギーがあるようで、担当者交代が容易ではない。　・リポジトリとは何か、という事が館員、ひいては学内に認知されていない(広報不足でもありますが)

オープンアクセス方針、研究データの取扱い、DOI の登録、システムの今後、人員の養成等、多くのことが課題となっている。

人員不足、コンテンツ収集、サーバの管理

特にありません。

【困っている】 大学内での共通認識がない　・メタデータ、著作権、博士論文など学内外の情報収集・共有が難しい　・図書館には、外部からリポジトリ関係の情報がよく届くが、大学内(研究者、教職員)へは少ない　・「研究成果(データ含む)の公開＝リポジトリ」の認識がない　・リポジトリを知っていても存在意義を感じていない　・大学の方針に基づく運用だが、現在も協議事項があった際、話はリポジトリの存在そのもの(必要か否か)となることがある　・他部署連携　【課題】　・閣議決定された「公的資金を使った研究成果の公開」や今後のオープンデータについてなど、大学としての協議　・実務側は、学内の研究成果物やデータの現状を情報収集
リポジトリに登録している論文の著者に、毎月、論文のダウンロード数をお知らせするメールを送信するしくみをなるべく費用をかけずに実現させるよう検討中。

リポジトリの運用以外の課題が多いため、あせらずゆっくり進めたいと思っています。他大学の進め方を参考にさせていただき、今後リポジトリの充実を図ってまいります。

リポジトリに掲載するメリットがあまりないと研究者が考えているため、なかなか研究者の協力が得られない。高額な DB の購入は難しく、業績データベース以外のコンテンツ調査方法(特に海外の論文)がなく、こまっている。

紀要論文以外のコンテンツの収集ができていない。教員に働きかけるための人手がなく、教員からの申し出を待っている。

現在、共同リポジトリでの運用ですが、今後 JAIRO Cloud 等への移行をどうするのが課題です。

PDF 形式以外での公開を指定された場合は対応できない(人員不足)。

学内の刊行物に限定してきたので、著作権処理に困ることはなかったが、今後、学会等の刊行物も対象とするか、またその場合の作業等も課題である。

担当者のマンパワー、スキル、知識の不足。他業務との兼ね合いも考えると、今後も取り組みを拡大することが困難。JAIRO cloud への移行も検討したい。

リポジトリの仕組みについて、教員にあまり理解されておらず、関心が低いこと。結果として、紀要以外のコンテンツの登録件数が伸び悩んでいる。

運用規程の作成。JAIRO Cloud 利用の検討。

システム(リポジトリサーバ)の永続的な確保。DOIの付与、運用・管理

日本の場合、学位論文のリポジトリ登録について学協会での認識がまだ少ないように思えます。学位論文の公表がしやすくなることを望みます。

大学でリポジトリを運営するには小規模大学では経費がかかりすぎる。自大学で行うのではなく国で行える仕組みが必要。また著作者が複数いる場合、物故者、外国人等もいるときなど、著作権確認が非常に大変。そのようなハードルをあげてまでやる事業なのか疑問。博士論文だけの公開であるなら、リポジトリではなく、インターネットや冊子等での社会への公開にすればよい。時間ばかりかかり、手間隙がかかる事業だと思える。

JAIRO Cloud への移行を進めている最中ですが、リポジトリに関する知識も十分でないため、関連する研修等に参加理解を深めたいと考えております。

・コンテンツ登録の申し出が少ないこと
・海外の出版社ポリシーを読んでも、本当に翻訳しきれているのか確認が持てないときがあること

今後登録のコンテンツを増やしていく場合、今回のアンケートにもあった著作権処理等に費やす時間・人員の確保が出来るかどうか。

コンテンツの遡及登録の際の著作者への許諾確認 メンテナンス等が担当できる人員の確保

過去の論文の著作権の確認を誰がどのように行うかということと、情報の専門知識のある職員がいないこと。

システムの移行(JAIROCloud)、ソフトウェアバージョンアップ(Dspace)への対応と、独自カスタマイズ、運用ポリシーの取り扱いの検討。

兼務で行っているため、コンテンツ収集業務が後回しになってしまいます。

本学発行の紀要以外の研究成果物のリポジトリ搭載ルールを検討中であるが、著作権処理が一番の課題となる予想である。

コンテンツの数が思うように集まらないこと。

著作権の帰属先がだれなのか不明な場合があり、その場合には機関リポジトリへの登録を躊躇することがある。

紀要等の学内出版物を機械的に登録しているだけで、研究者個々の成果物は拾えていない。

特にありません。

過去の紀要(学術)論文の許諾が取れない点。

博士論文の電子化を進めたいが、公開許諾書(教務部に取りまとめを依頼)が全然集まらない。

特にありません

特になし

登録対象が共著論文であった場合に、教員に共著者許諾を得てもらうことが課題となっている。

・質問 17 その他、機関リポジトリ推進委員会に対し活動の要望等があれば、自由にお答えください。

少ない人数でどうやってリポジトリを運営されておられるのか知りたいです。

創刊号からの遡及などで問題となる著作権者が不明のような場合の措置について、いわゆる「孤児作品」等への対応が積極的にのぞまれる

分類が Gray で検討中だった学会の方針が決定した場合にお知らせが流れると役に立つと思います。リポジトリから研究データを公開する場合のガイドラインを作成していただけると実際に収集登録を開始する際に助かります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

機関リポジトリを通したより有効な情報発信のためには、他機関様の状況を知ることは大変参考になります。情報交換の機会の更なる充実を期待しています。

本学のリポジトリは、これから育てていかなければならないものと認識しております。目指すべき方向や取り組むべき課題のご提示及び解決策のご教示等を今後ともよろしくお願いいたします。

特になし。

大学機関全体のリポジトリ推進のためにも、大学学長、理事長など経営陣への啓発活動を積極的に行なっていただきたい。

特になし

特になし

特になし

特にありません

なし

大変ご多忙の中恐縮ですが、公立大学協会図書館協議会のHPで、活動内容の公表を促進していただければと存じます(HP委員会とも関係するのかもしれませんが)。トップページに「委員会」の項目を作成し、活動内容について公開を図る等、また委員会で収集した情報を公開(「資料集」の項目がありますが、そこで例えば「リポジトリ登録申請書式」等を公開する、もしくはトップページに「委員会」の項目を作成しそこで公開する等)していただければと存じます。

特になし

今後もリポジトリに関する情報を発信してほしい

特にありません

愛知県内や東海地区で、リポジトリについてのいろいろな研修会を開催していただけると嬉しいです。

地域ごとの研修を毎年実施してほしい。

特になし。

特にありません。

オープンアクセス方針の採択などについて、図書館以外(教員・他の部署)への広報を進めてもらいたい。人文系の先生に対するメリットとして、インパクトファクターやそれ以外の方法に関する検討(普及方法など)をしてほしい。

特にありません。いつもありがとうございます。

今後リポジトリに関する情報を発信してほしい

ハーベスト等、リポジトリの専門的な技術が分からないことが多いので、近場で研修があると幸いです。

特になし。

お世話になっております。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

データキュレーター育成プログラムの検討をお願いしたい。

IPRCのホームページを大変有難く拝見させて頂いています。業務の参考にしています。

国内誌のポリシーの確認ならびに許諾申請手続きに手間がかかるので、学会、商業出版社ともに、啓発をより一層行っていただければと思います。

特になし

リポジトリ構築・運営事例の収集公開をして欲しい。データベースで調べた結果とは違っていることがあるため、著作権ポリシー確認支援をして欲しい。

小規模の大学からは意見を言える雰囲気がない。

特になし

特になし

ホームページにおいて、フォーラムの発表資料が閲覧できることは、大変ありがたいと感じています。

出版者ポリシーをもっと簡易に確認できる施策を希望。

地方での講習会がこれからもあるとよいと思う。

特にありません。

特にありません

機関リポジトリ先行館と機関リポジトリを構築したばかりの図書館では知識に大きな差があります。研修の充実や豊富な情報提供をよろしくお願いします。

特になし

JAIRO Cloud (weko) 以外のシステム(Dspace、XooNips、EPrints など)を使っている機関へのフォローをもっと増やしてほしい。聞いた話では、急な人事でいきなり機関リポジトリ担当となった場合に、Dspaceなどの構築、操作など全く分からず、またすでに導入業者とのつながりもない状況で、頼るところが全くないといったケースもあった。そのようなところに JAIRO Cloud コミュニティのような場を提供するなどのフォローがあったらいいのではと考えます(DRFのメーリングリストは最近、高度化が著しいので、入りにくいという声をよく聞きますので・・・)。

特にありません

16について、各学会・出版社に方針を明示するよう、働きかけて欲しい

特になし。

大学としてのオープンアクセス方針策定の参考となるフローなどがあるとありがたく存じます。

特にありません。

大きな大学ではなく管理運用は図書館で、担当者は図書館業務と兼務です。学内で協議の際には、図書館へ届いた情報などの提供は図書館(個人)の見解ととらえられがちなため、「機関リポジトリ推進委員会」での研修会・講習会等を大学教職員に対して設けていただけると幸いです。

特にありません。

他大学の推進状況に、参考となる例がありましたら、ご紹介願いたいと思います。

いつもお世話になっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

質問9で出版社ポリシーを確認していることにチェックをいれましたが、原則は論文提出者に確認をお願いしています。論文提出者でわからない方も多いので図書館が支援をしています。

例えばハーベストなど専門用語が分かりづらく、最初は戸惑ったので、もっと分かりやすくしてほしいです。JAIRO Cloudのwebページも探したいものが見つけにくいです。有料化がいつから始まるのか明記されたものがなかなか探せなかったです。

論文を掲載するのに、大変な時間を要した。もっと簡便な方法で掲載できるようシステム構築のご検討をお願いします。

参加費のかからない研修会や情報交換会等を開催していただきたい。

特にありません。

特にありません

特になし

現在のデータベース管理は、実質的に1館の活動となっているので、委員会によるより積極的な関与を希望する。